

寄宿舎教育研究集会

8月31日に高校会館で約70人の参加で開催しました。午前中は株式会社ヘラルボニーの松田崇弥さんと松田文登さんのお二人から「障害が絵筆となる未来に向けて」と題した講演がありました。お二人は障害者の描く絵や文字をその芸術性の高さをいかして傘や小物などのグッズにして販売をしている会社を営んでいます。また、工事現場の殺風景なフェンスに絵を描くなどして、障害者への理解を深めてもらう活動をもされています。

午後からは障害種別体験学習を行いました。アイマスクをして階段を上ったり、自動販売機からジュースを買ったり、寝転んだ状態から車椅子に移動してもらう体験などをして、自分が援助をする場合どのようにすればよいのか、相手の身になって知ることができました。



2019両教組合同インクルーシブ教育学習会

9月26日に岩手教育会館で43人（高教組30人）の参加で開催しました。高教組と岩教組が合同で、インクルーシブ教育の理念を、小・中・高・特別支援校・寄宿舎間で共有し、推進についての学習を深めることを目的に開催しています。

今回は、るんびにい美術館のアートディレクターの板垣崇志さんと小林覚さんの「出会い授業（出前授業）」でした。釜石出身の小林覚さんは、小学校を2回転校するなど小学校時代には辛い体験もしているそうですが、現在はアート感覚にあふれた文字を自在に綴って、各地で出会い授業も行っています。最初に出会い授業を行ったのは、不來方高校だったそうです。当初



は、障害のある小林さんが授業をする事に対して、何がおこるのかわからないと懸念する雰囲気もあったということですが、板垣さんは、「自分がどれくらい覚さんを信じていられるかだ。」とお話しになっていました。板垣さんはまた、「インクルーシブとは自己肯定感の中で暮らすこと。」「表現するということは、生きていることを示すこと。つまり、生きていること。表現を否定されることは、ここで生きてはいけないと言われることと同義。」と、講演や質疑応答の中でお話しされました。インクルーシブや表現について、様々な学びを得た学習会でした。

